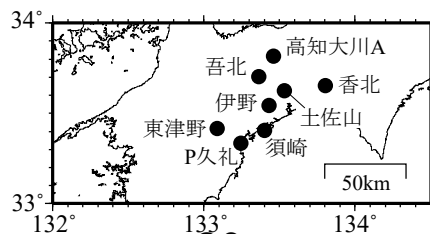
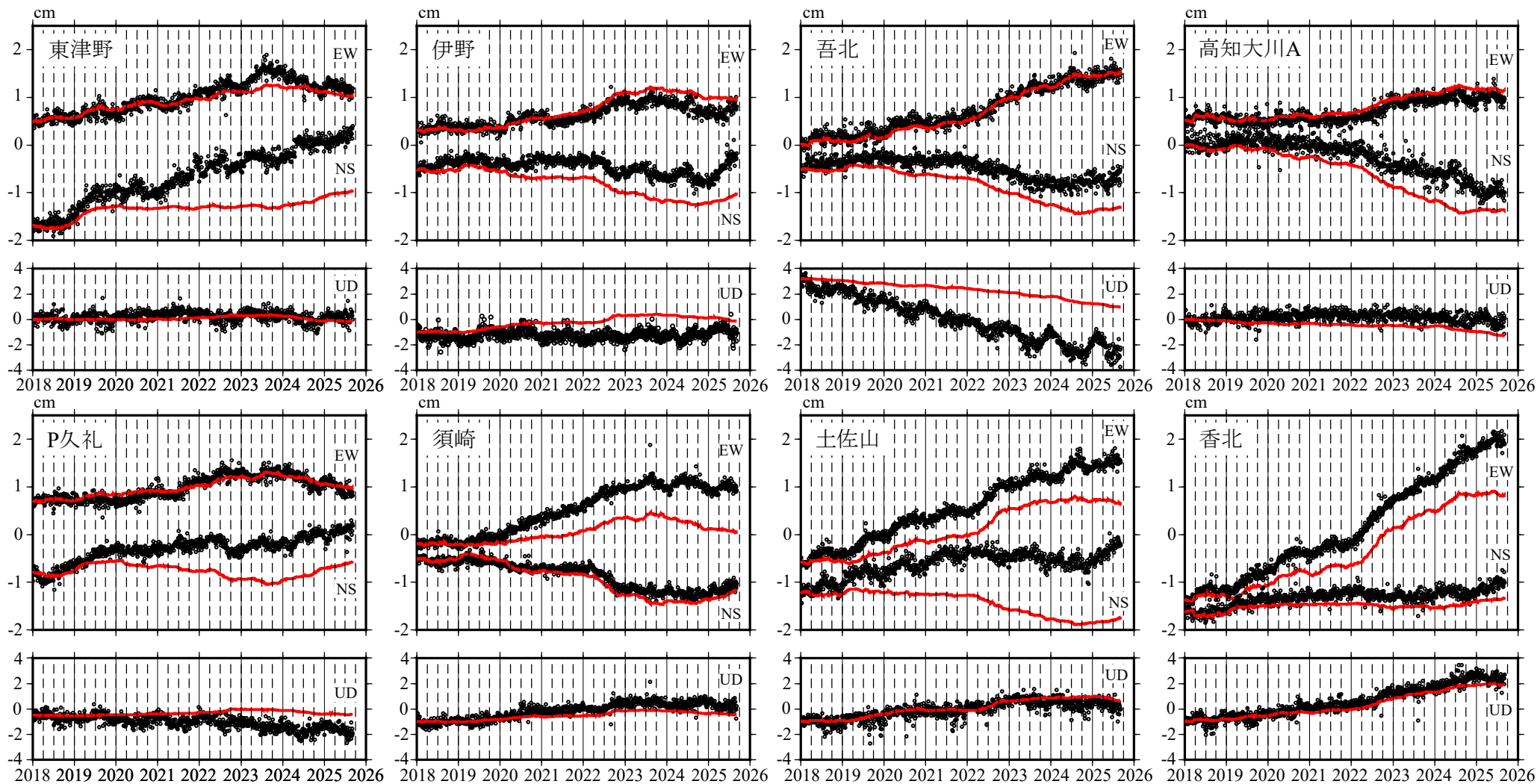


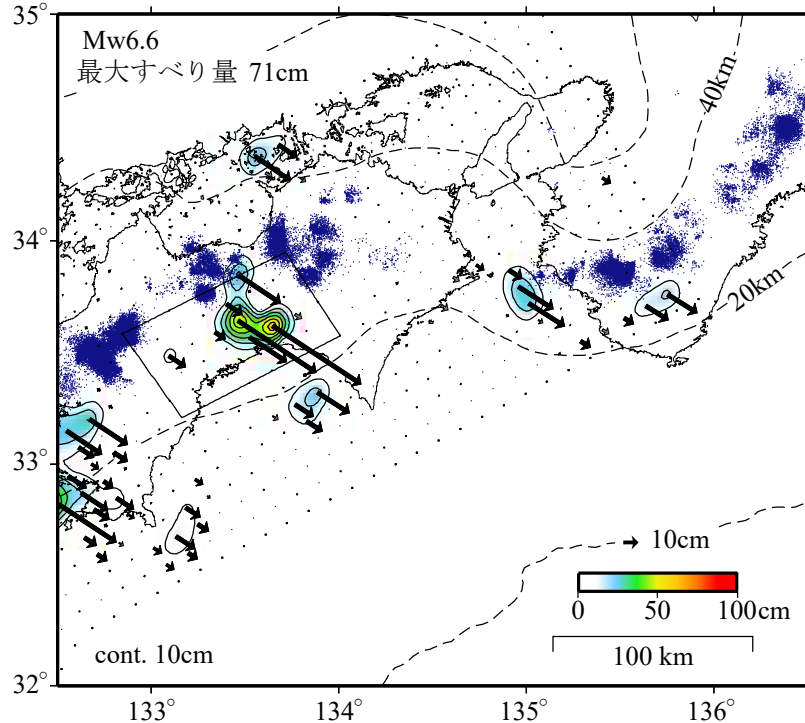
四国中部の観測点の座標時系列(黒丸)と計算値(赤線)
時間依存のインバージョン



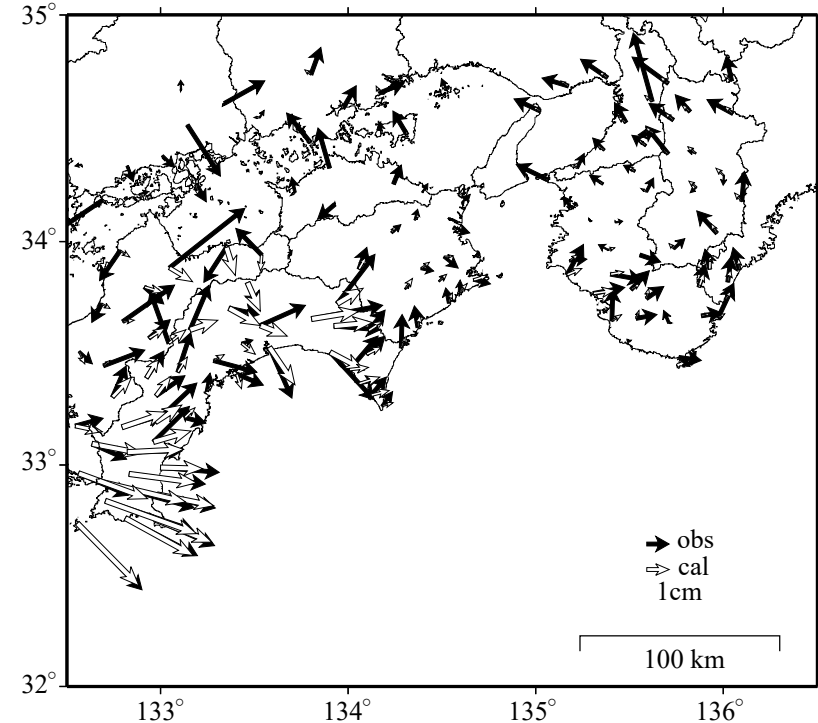
EW : 東西
NS : 南北
UD : 上下

GNSSデータから推定された四国中部の長期的ゆっくりすべり(暫定)

推定すべり分布
(2019-01-01/2025-09-06)



観測値(黒)と計算値(白)の比較
(2019-01-01/2025-09-06)



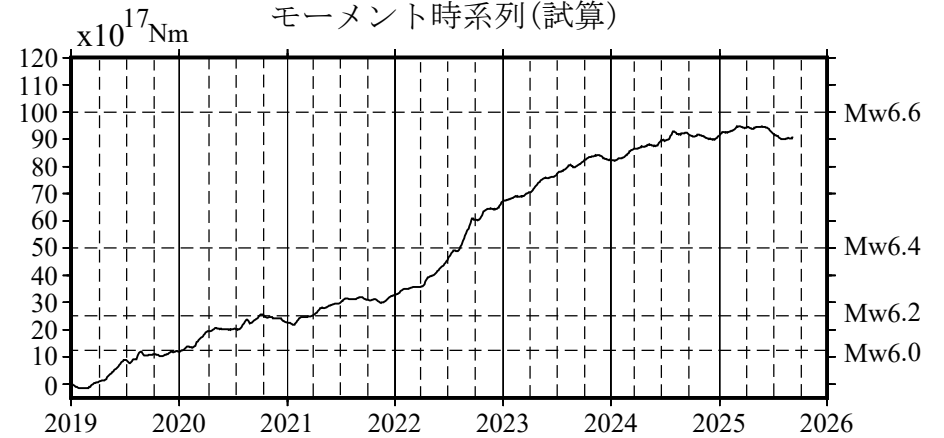
Mw及び最大すべり量はプレート面に沿って評価した値を記載している。
すべり量(カラー)及びすべりベクトルは水平面に投影したものを示している。
推定したすべり量が標準偏差(σ)の3倍以上のグリッドを黒色で示している。

使用データ：GEONETによる日々の座標値(F5解、R5解)
・F5解(2018-01-01/2025-08-23)+R5解(2025-08-24/2025-09-06)
・トレンド期間
(九州・四国西部)：2006-01-01/2009-01-01, (四国中部)：2017-04-01/2018-04-01
(四国東部・紀伊半島)：2017-01-01/2019-01-01 (年周・半年周成分は補正していない)

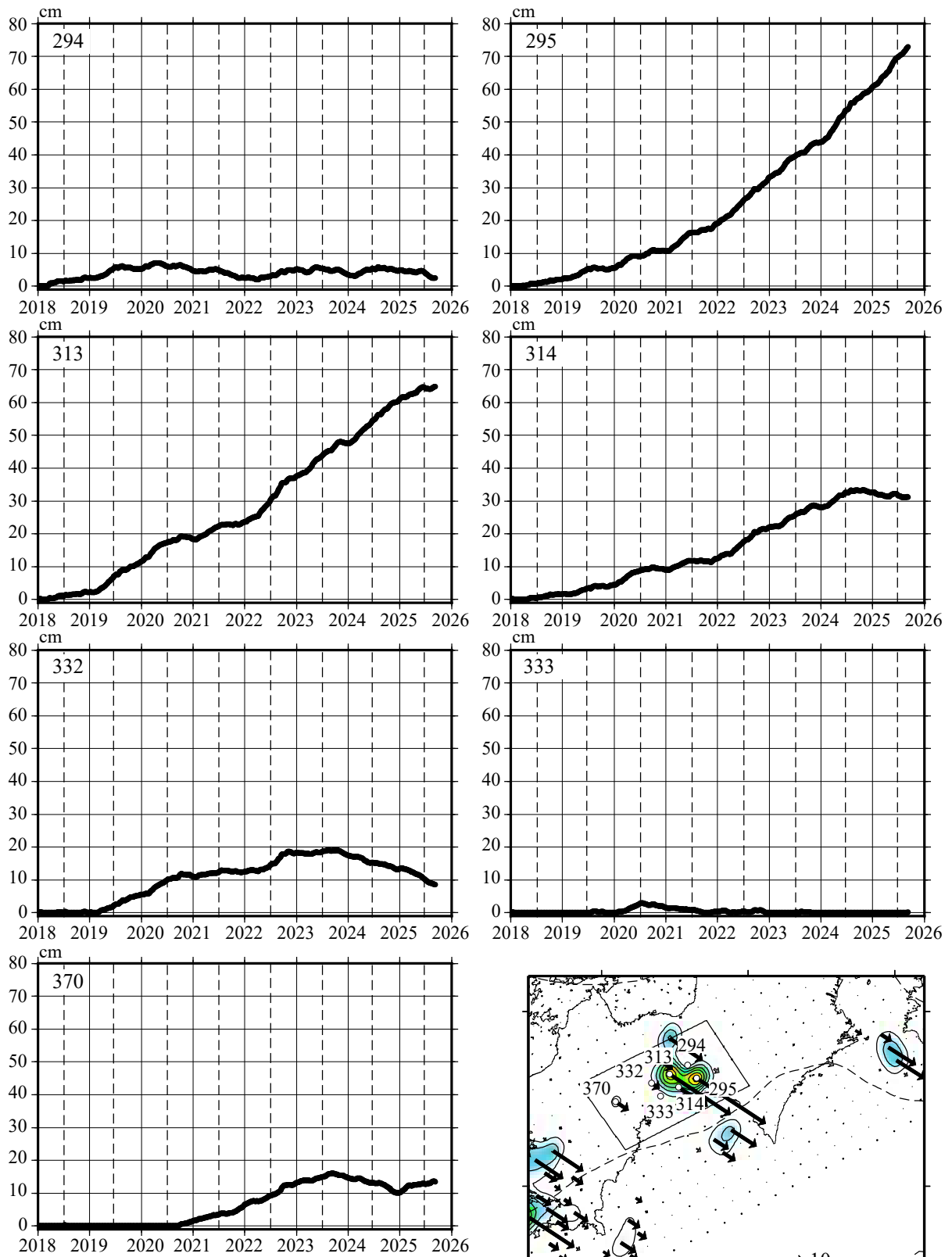
モーメント計算範囲：左図の黒枠内側
観測値：3日間の平均値をカルマンフィルターで平滑化した値
黒破線：フィリピン海プレート上面の等深線(Hirose et al., 2008)
すべり方向：プレートの沈み込み方向に拘束
青丸：低周波地震(気象庁一元化震源)(期間：2019-01-01/2025-09-06)
固定局：上対馬

- *モーメント：断層運動のエネルギーの目安となる量。
- *電子基準点の保守等による変動は補正している。
- *Nishimura et al. (2013)及び気象庁カタログ(2017年以降)の短期的ゆっくりすべりを補正している。
- *共通誤差成分を推定している。
- *平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震及び平成28年(2016年)熊本地震の粘弾性変形は補正している(Suito, 2017; 水藤, 2017)。
- *種子島の地震(2019-01-08, M6.0)、日向灘の地震(2019-05-10, M6.3; 2022-01-22, M6.6)に伴う地殻変動は補正している。
- *豊後水道の地震(2024-04-17, M6.6)、日向灘の地震(2024-08-08, M7.1; 2025-01-13, M6.6)に伴う地殻変動は補正している。
- *令和6年能登半島地震に伴う地殻変動は補正している。

モーメント時系列(試算)



四国中部の長期的ゆっくりすべり 各グリッドにおけるすべりの時間変化 時間依存のインバージョン



プレート沈み込み方向と平行な方向の変化を示している。

すべり量(カラー)及びすべりベクトルは水平面に投影したものを示している。

推定したすべり量が標準偏差(σ)の3倍以上のグリッドを黒色で示している。

